

## 4. まちづくり講演会（2月26日） 結果報告



●琉球大学の安藤准教授（アイデアコンペ審査委員長）を招き、瑞慶覧地区の今後のまちづくりに参考となる講演をしていただきました。議事概要は、以下のとおりです。

講演テーマ：  
これからのキャンプ瑞慶覧地区のまちづくりを考える

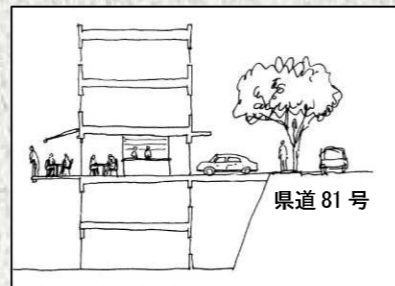
### 地権者としての心がまえは？

●まちは、成熟するのに約100年の時間がかかります。だからこそ、地元で暮らす人（将来、そこに入るわけで、先祖に叱責されないように、また、子・孫に感謝されるようにと、資産を大切に次世代に引き継ぐ意識を持つ）が主役となって取り組むべきです。

### 瑞慶覧地区に対する提案として・・・

●日本全体として人口減少が予測されているのに、本当に住宅地は必要なのか、という問題に直面している中で、大切なのは、各住宅地の個性を際立たせること。このため、瑞慶覧で「多自然型」「ハウジング」という個性を際立たせる考えは、地域風土としても望ましい。

●北中城のゴルフ場跡地に大規模商業施設の計画がある中で、商売を成立させるためには、瑞慶覧ならではの魅力が必要です。そこで、海を見渡せる眺望を活かすべく、県道81号の段差側にテラスを設置し、隣り合った建物のテラスをデッキで連続させ、全体として眺めが良く連続した商業空間とすることが考えられます。



●手入れの行き届いた共有空間（特に、公園）の質は、地域の価値を高めます。

●涼しい並木道は、地域の財産となります。沖縄の樹木は、成長が早いので、先々のことを考えて場所を確保し、しっかり木を選定して植えれば、20年程度で立派な並木道になります。

### 今後のまちづくりの進め方は・・・

●国の財政は悪化していますが、沖縄に関しては、基地関連で予算がまだ出されています。つまり、今が「100年先まで残る、きちんとしたまちづくりを行う最後のチャンス」かもしれません。

●最後のチャンスを逃さずに、きちんと先を見据えて計画を立てるとなると、「まちづくりを推進する組織の設立」が重要です。組織については、100年その土地と関わっていく人が中心となって立ち上げるべきです。

●スケジュールとしては、3年以内にきちんとした具体的な計画案を作り、次の世代に残していく素案とすることが必要と考えます。

返還時期等の詳細な情報は、いつ明らかになってもおかしくありません。  
来年度も、まちづくり活動への参加など、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### ニュース等に関する問い合わせ

宜野湾市基地政策部基地跡地対策課 担当：新垣、名幸  
TEL：098-893-4401（直通） FAX：098-892-7022

# キャンプ瑞慶覧返還予定地区 まちづくりニュース

発行：宜野湾市基地政策部基地跡地対策課

2009年3月 Vol. 22

TEL 098-893-4401（直通）

### 《本号の概要》

今年度の活動成果をご確認ください。

キャンプ瑞慶覧返還予定地区では、『いつ返還されても円滑なまちづくりが出来る用意を整える』ものとして、今年度もまちづくり活動を進めてきました。



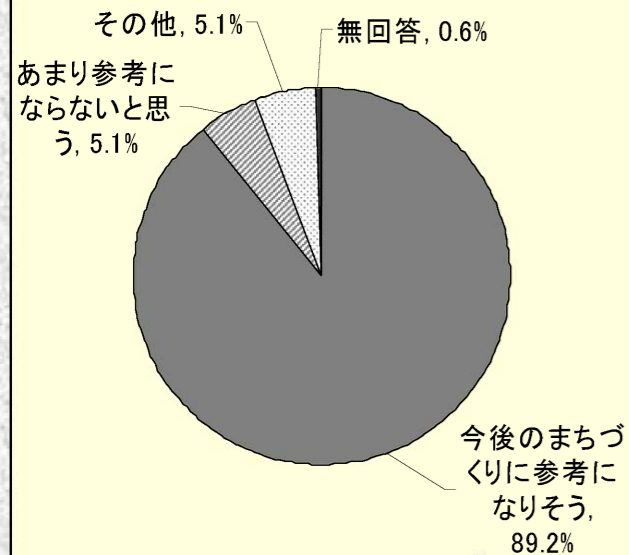
本号では、先月実施した「地権者意向調査」や「まちづくり講演会」の結果のほか、今年度の主な活動成果を簡単にご報告します。

# 1. 地権者意向調査（2月12～23日） 結果報告

- 地権者意向調査は、今年度の活動成果に対する皆さんの意向を聴取するために実施しました。
- 瑞慶覧地区の地権者 607 名のうち、157 名の方から回答がありました（回収率：約 26%）。

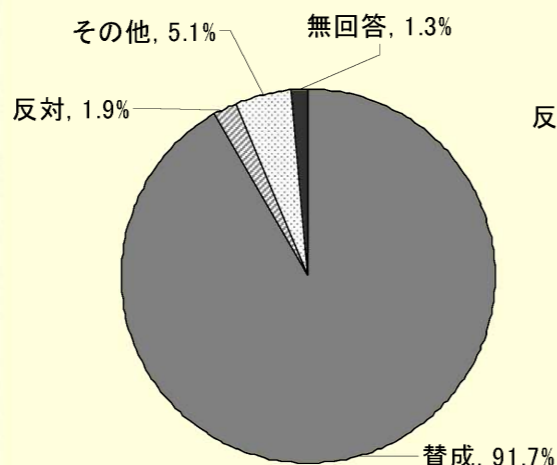
## アイデアコンペに関する設問

アイデアコンペを実施してみて、どう感じになりましたか？

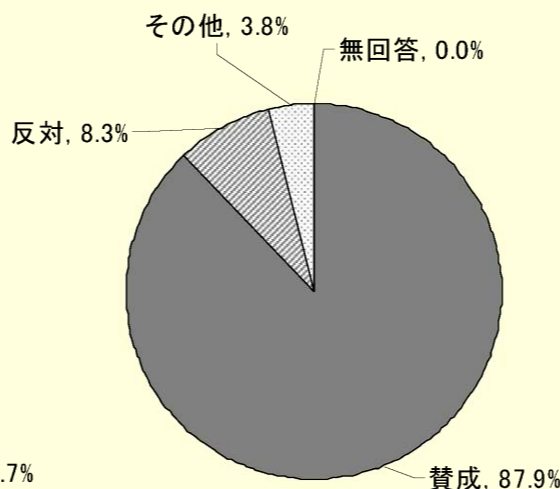


## まちづくり体制の案に対する設問

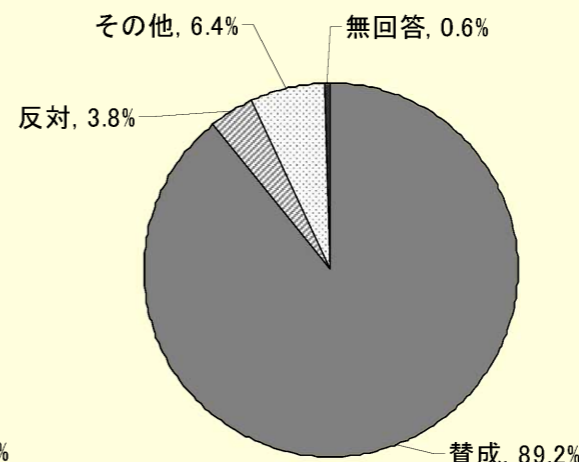
勉強会に、若い世代の地主関係者（子・孫など）が参加するとした場合、あなたはごどう思いますか？



勉強会に、地主以外（市民、専門家など）が参加するとした場合、あなたはごどう思いますか？

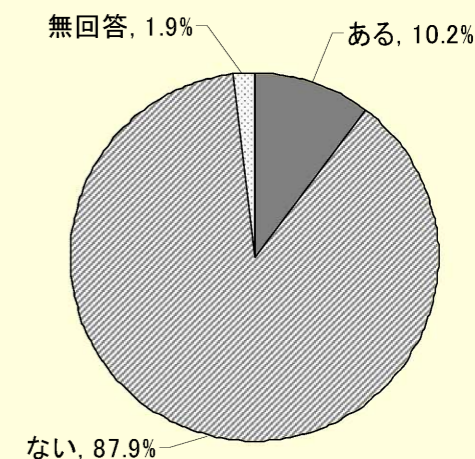


今後のまちづくり活動において、地主の中から代表者を選び、その人達を中心となり活動していくとした場合、あなたはごどう思いますか？



## まちづくり体制への参加に関する設問

地主の代表者を設けることになった場合、あなたは代表者として参加する意志はありますか？



# 2. アイデアコンペの開催 とりまとめ

- アイデアコンペは、様々な人からまちづくりのアイデアを募集し、これを参考に、より良い跡地利用計画へ発展させることを目的として、開催したものです。

## 締めくくりとして、表彰式（2月26日）を開催！



受賞者・主催者・審査委員長らによる記念撮影



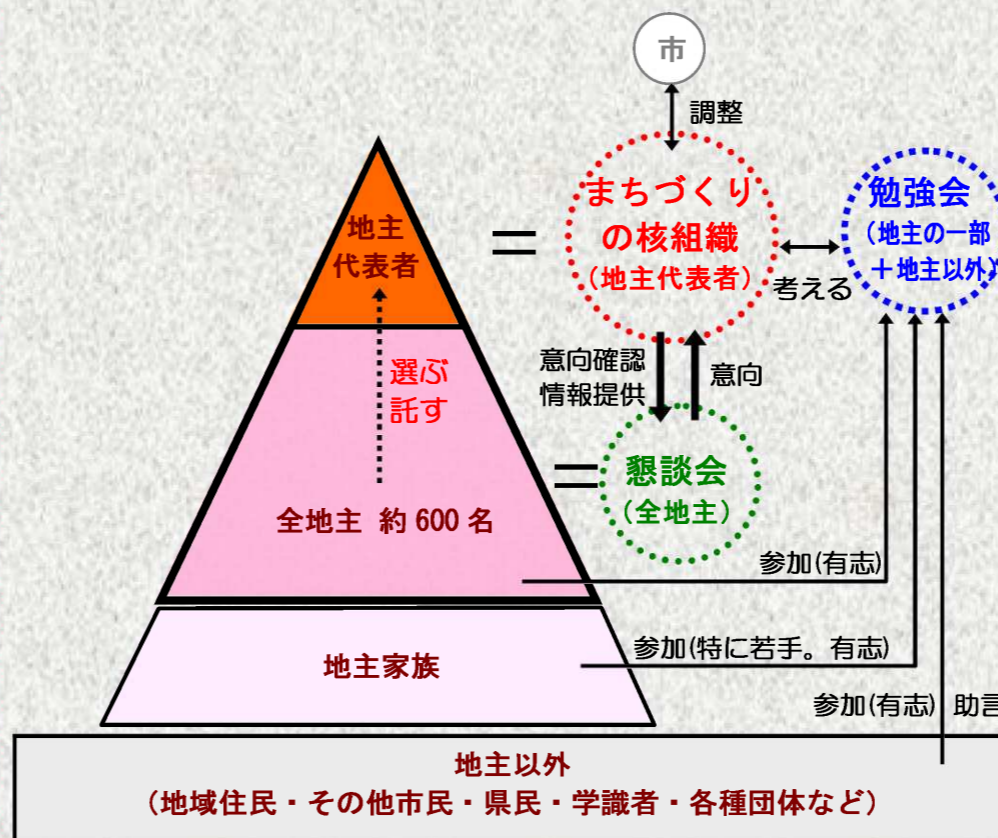
受賞者は作品に込めた想いを発表

## 次年度は・・・

- 応募された計 53 作品の中から、活用すべきアイデアを整理し、跡地利用計画に反映します。
- また、そのまちづくりイメージは、視覚的により分かりやすく表現することを考えています。



# 3. まちづくり体制の検討 とりまとめ



- まちづくり体制とは、跡地利用検討などについて、「誰が参加し、どんな方法で考え、どんな手続き・意志決定を経て進めるか」という仕組みです。

## 新しい体制の案を検討しました

- 今年度は、現在の体制の問題点や、基地返還の際に起こりうる問題点を踏まえ、新しいまちづくり体制の案を検討しました。※左図を参照
- ポイントは、「まちづくりの核組織の新設」と「まちづくり勉強会のパワーアップ」です。

## 実現に向けて・・・

- 「まちづくりの核組織」は、返還時期等の動向を十分考慮しながら、そのあり方の研究を継続的に進めるものとします。
- 「まちづくり勉強会」は、来年度より、若手の参加などのメンバーの充実、検討内容の充実を図り、議論の活性化を目指します。